

平成29年度年間防災訓練計画

	訓練想定	訓練内容	訓練日時
4月	地震発生	放送にて、揺れがおさまるまでの自宅待機を呼びかける。数秒おいたのち、揺れがおさまったタイミングで荘庭に避難するよう放送を入れる。1～5号室利用者は表階段を、6～12号室利用者は非常階段を使用して避難する。	第二回会議日 16時～
5月	3・4階シャワー室より火災発生	職員は荘内放送を入れ、利用者に対して避難時には必ずヘルメット・煙フード等の着用をするよう伝える。3、4階1～5号室利用者は姿勢を低くして表階段から避難するよう指示をだす。	〃
6月	乾燥機室より出火	雨季にて、乾燥機の連続使用により出火。職員は、初期消火、避難誘導と、それぞれ分かれて対応する。利用者は全員非常階段を通して荘庭に避難する。201～205号室利用者に限り本来であれば避難梯子を使用しての避難になるが、今回は訓練にて、表階段を通して避難する。	〃
7月	夜間震度7の地震が発生。火災同時発生。荘全体に延焼。	大地震発生。表階段損壊。避難指示の放送を入れる(この間に職員は廊下及びトイレの電気を消し、ボイラー室、乾燥機室前で煙玉を焚く)。利用者に対して注意喚起し、職員は利用者の安全を最優先に避難誘導する。避難時には利用者・職員は必ず非常階段を通ること。	第一回自治懇 日19時～
8月	娯楽室から出火	夏休みの子どもの多い時間帯に発生。職員は荘内放送を入れて直ちに避難を呼びかける。少年指導員は学童を引率して避難。避難時には煙フード等の着用を呼びかける。利用者・職員は荘庭に避難する。3F利用者及び、娯楽室利用中の利用者・職員は姿勢を低くして避難する。	未定(予定にあ わせて入れま す)
9月1日	地震発生	地震発生。放送にて、揺れがおさまるまでの自宅待機を呼びかける。数秒おいたのち、揺れがおさまったタイミングで荘庭に避難するよう放送を入れる。利用者・職員は荘庭に避難。その後小学生の母はお迎え訓練(学校側)に参加する。母不在の学童については職員が対応。	防災の日(始 業式)10時～ 訓練開始
10月	地震発生	地震により強い揺れを感じる。放送にて、揺れがおさまるまでの自宅待機を呼びかける。数秒おいたのち、揺れがおさまったタイミングで速やかに荘庭に避難するよう放送を入れる。	第二回会議日 16時～
11月	夜間206・207から出火・延焼。煙充滿。災害発生時間は22時。	夜間失火により火災発生。発見が遅れ既に延焼が始まっている。初期消火不能。宿直職員は館内放送で避難を呼びかける。訓練時には必ず煙フード着用を呼びかけ、直ちに消防に緊急出動要請を行う。	第2回自治懇 日19時～
12月	地震発生	地震発生。放送にて、揺れがおさまるまでの自宅待機を呼びかける。数秒おいたのち、揺れがおさまったタイミングで荘庭に避難するよう放送を入れる。利用者・職員はヘルメットを着用の上荘庭に避難。	第二回会議日 16時～
12月	炊出し訓練	名古屋市内で震度7の大地震発生。にじが丘荘の建物に倒壊の危険がないと判断し、にじが丘荘に戻り避難生活をする。防災備蓄品その他、各家庭の食品を持ち寄り避難生活を始める。旧園庭使用。	大掃除後
平成30年1月	火災発生	306号室・406号室から出火。各階利用者・職員は必ず煙フードを着用して避難する。	第二回会議日 16時～
2月	3・4階シャワー室から出火	激しく燃えており、3・4階1～5号室の利用者は姿勢を低くしての避難を呼びかける。職員も同様に避難する。	〃
3月	夜間21時。大地震発生。ボイラー火災発生。職員体制は2人。	非常階段は一部損壊、表階段のみ使用できる状態。ボイラー室・乾燥機室から火災発生。職員は初期消火にあたりつつ、乾燥機室前では特に姿勢を低くして避難するよう注意喚起する。避難時には必ず煙フードの着用を呼びかける。発煙筒使用。	第三回自治会 懇談会日19時 ～

※ここで言う地震訓練の想定は震度6弱以上の地震を指す。

※12月大掃除後に、炊き出し訓練を実施する。

※毎月の避難訓練時において、初期消火訓練を実施する。

※初期消火訓練は全利用者の母すべてに経験してもらう。

※自治会懇談会日には通報訓練を行う。なお、消防に事前に出発を行う。